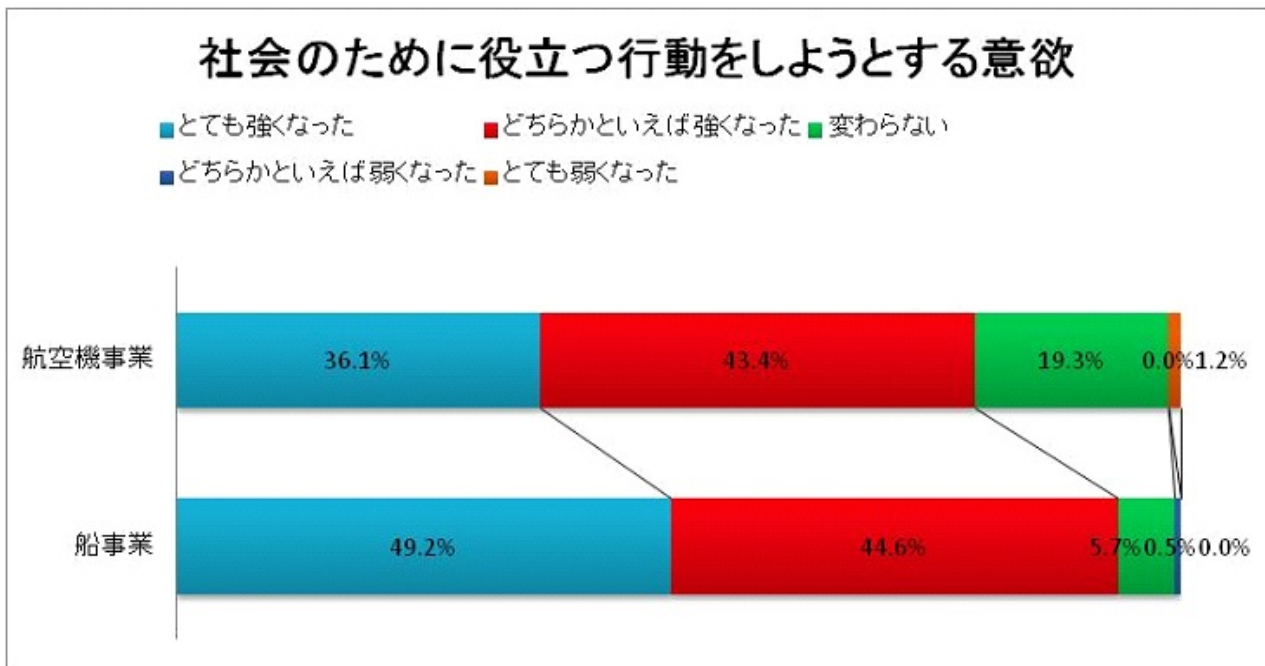
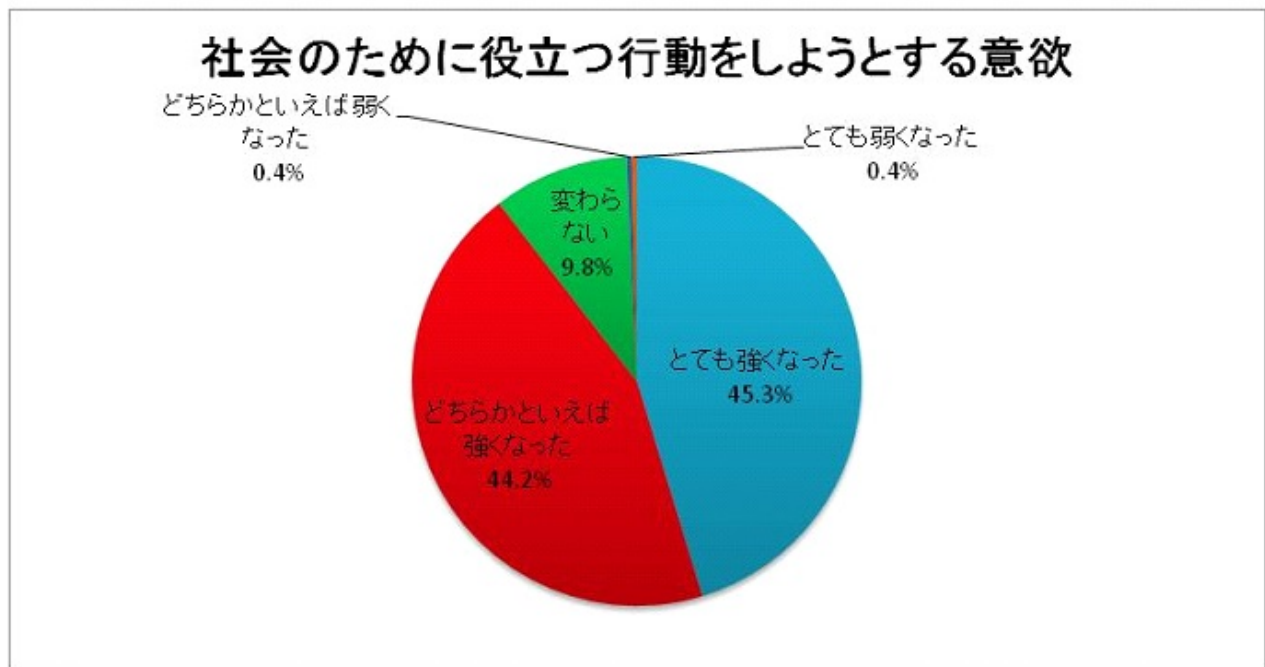


第2章 社会貢献活動に関する経験や意欲

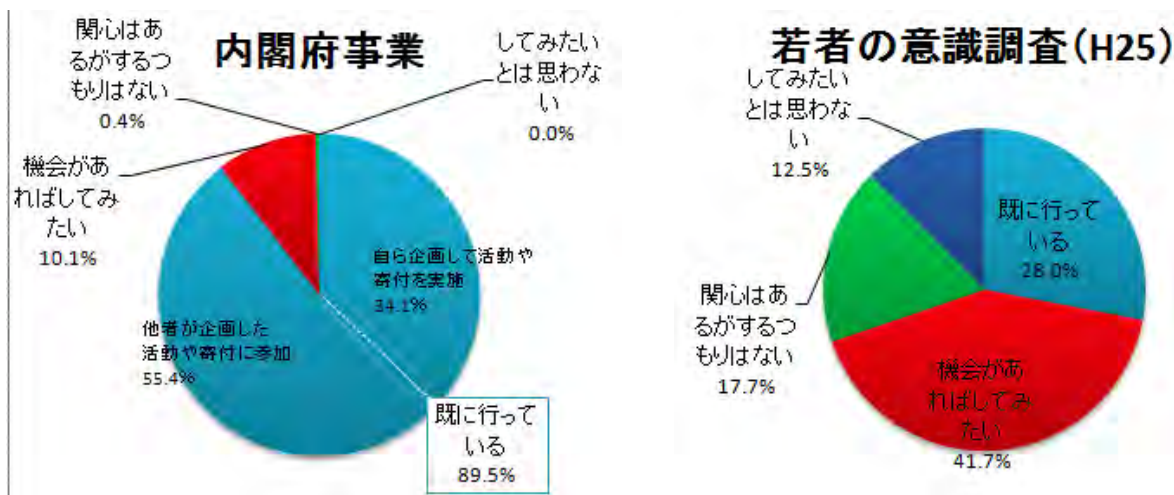
質問2: あなたは、事業への参加後、参加前に比べ、社会のために役立つ行動をしようとする意欲が強くなりましたか。

「とても強くなった」「どちらかといえば強くなった」とする割合が約 90%を占めており、事業への参加が社会貢献への意欲を高めたことがわかる。また、どちらかといえば航空機事業(国際青年育成交流事業、日本・中国青年親善交流事業、日本・韓国青年親善交流事業)に比べ、船事業(世界青年の船事業、東南アジア青年の船事業)のほうが参加青年により強い影響を与えている。



質問3:あなたは、ボランティア活動や寄付をしたことがありますか、してみたいと思いますか。アとイの両方に該当する場合は、アを選んでください。(事業参加後の状況について回答し、事業参加より前に行ったボランティア活動や寄付は回答に含めないでください。)

内閣府事業への参加後、ボランティア活動や寄付に参加した者は 89.5%であり、一般の若者を対象とした「少子高齢社会等調査検討事業報告書(若者の意識調査編)」の 28.0%と比べてはるかに高い割合でボランティア活動等に関わっている。さらに、ボランティア活動等を自ら企画した内閣府事業参加青年は 34.1%であり、多くの参加青年が主体的に社会貢献を行っている。



【出典:厚生労働省「少子高齢社会等調査検討事業報告書(若者の意識調査編)」(平成25年3月)】

質問4:質問3でア又はイを選んだ方にお聞きます。内閣府事業への参加経験は、あなたが企画した又は参加したボランティア活動や寄付に役立ちましたか。役立ったとすれば、どのような形でしたか。あてはまるものすべてを選んでください。

「意欲」「知識・能力」「ネットワーク」の順に、7割を超える高い割合で事業後の社会貢献活動に役立ったことがわかる。これらに比べると少ないが、それでも6割以上の参加青年が、内閣府事業への参加がボランティア活動等に関わる直接的なきっかけとなったとしている。事業が特に役立っていないとする者は、4.0%と極めて少ない。

